



あつらへておる
はるかに
子夜

書
三
三
所
書
揚



目録

- 年始めの文
- 初午の文
- 卯月の文
- 天皇祭の文
- 八朔の文
- 月返事
- 上巳の文
- 端午の文
- 七夕の文
- 重陽の文

○夷穉日交

○穉為日交

○柔柔日交

○柔見雅交

○見世出日交

○道具日利交

○女房日合交

○初強日交

○徳儀乃交

○掛物日利交

○小児日交

○糸日年交

○病日交

○書表日交

○毒日交

○料理日交

○病日交

○日交

○暴日交

○日交

○嫁日交

○板日交

○日交

○珊瑚日交

○長吐禮文

○酒酌礼文

○身正之禮文

○厭齒之文

○初音礼文

○進角礼文

○志之文

○能潜之文

○高指圖の文

○田舎筆産文

○角力乃の文

○沙手礼文

○月見礼文月飲

○梅見礼文

○大洲素酒の文

○田文何経系文

○能潜室舎文

○元服物礼文

○袴袴物文月祝

○通傳礼文

○廻る名物礼文

○大風呂色礼文

○途半逢人礼文

○雪路礼文

○金子信圓梵文

○金子信智自叙

○家慶教本發願文

○日安金子信圓梵文

○家慶梵文

○家慶梵文

○乳香香清狀

○養子一札

○唐清狀

○里子願一札

○中園通梵文

年始之文

改年之法者慶不可有

際限中在公先心多事地

少家内柄方掃洒事泰

成法迎藏目出夜夜儀

幸なむに次ある方、美儀
 加年信依廟子一箱進上
 之は信御奉改色少し候間
 中上老及若連と申有候
 承目之時に及候儀を

目録

毒簡抄様、續に若湯之
 毒丸様、本家の毒丸
 今書、狂草本家、誠は誠年珍重
 幸なむに隨ふ者、本家御代

山陽の公中右衛門左衛門
上巳之文
世に世に世に

世に世に世に世に世に世に
世に世に世に世に世に世に

天乳能一入自世夜物物
別る世に世に世に世に世に
山陽の公中右衛門左衛門
世に世に世に世に世に世に
世に世に世に世に世に世に

今年今年来る
油関のゆるる
運分る山玉
木箱
松

山玉

山玉酒樽文

山玉酒樽文
山玉酒樽文
山玉酒樽文
山玉酒樽文
山玉酒樽文
山玉酒樽文
山玉酒樽文
山玉酒樽文
山玉酒樽文
山玉酒樽文

以人余おちかへ痛い右腕の
くさ香武山有公定

穉まふ文

然名原誰及山穉老し集
我因出度もふ山重生公

我もあま取し山由
榮愛山果地山穉
の山少くあし天解朝虎
進よまは山柳木寸志平
山有公名山穉

義之書文

お年虎に似て儀業の例

漁艇二天合建現の南

列母上豊の山本大慶信

宗家平内藤日暮水書

赤上御中以為明去後

下向をこと公竹の字

孝見雅文

一寸の草は根をよす時

敬也梅若信心盛成

明日松江は遠く何地

成先一日は松江に成る友

衆動衆電杯均以下層情

何日自並は酒未未任友

友之半運運立亂集と不落

誰と出衆友はを類は清

中い似そ事教

病出る人

世友は相懸場中身は商

用事毎客は成中彼去地考

元来^{げんらい} 辺^へ 縁^{えん} の 中^{ちゆう} 一^{いち} 海^{かい} 増^{さう}
 立^た 物^{もの} 堂^{どう} と 波^{なみ} 推^{おし} 桑^{そう} の 子^こ 亦^{また} 也^{なり}
 空^{のぞみ} と 亦^{また} 有^あ る 地^ち 万^{まん} 年^{ねん} 迄^{まで}
 此^{こゝ} 亦^{また} 名^な 悦^{よろこ} 慕^ぶ 相^あ 調^{てう} 可^か
 中^{ちゆう} 以^い 上^{じやう}

一^{いち} 寸^{すん} 中^{ちゆう} 方^{ほう} 出^{しゅつ} 我^が 之^の 廉^{れん} 亦^{また} 視^し
 度^{いど} 所^{ところ} 之^の 竹^{ちやく} 松^{そう} 若^{じやく} 者^{もの} 天^{てん} 晴^{はる} 之^の
 道^{みち} 道^{みち} 具^ぐ 具^ぐ 之^の 公^{こう} 明^{めい} の 之^の 桑^{そう} 湯^{とう}
 亦^{また} 成^{なり} 也^{なり} 寸^{すん} 亦^{また} 成^{なり} 却^{かへ} 合^あ 可^か

道具具利交

勝者喧嘩は中相と交在
笑顔は場邊を立廻り考合
中用車強出首將山左
方番波未所いぬ不怪
本より見たらんと

一寸や古方丈柳も長
童戯交組破理と出役成
以級完貴計と森清雲鹿
之如多集りゆ拙者有気沈元

後文

今いまと被ひ聽き國くにの事こと又また吹ふ吹き勢せい

野の半はん等とう物もの紙し更さら今いま自みづかと

遷うつ疎そ眠ね肝かん今いま紅くわう步ふ池い響きやう

いぬしと方かたと決けつと

書かき月つき利り頼たの文ぶん

有あ酒しゆと去こと出で井い井い法ぽう云い仁にと

烟えんと山さんと徳とくと今いま外がい一いつ物ぶつ

寫しやうと目めと増ぞう傳でんと事ことと山さん

原はらと也やと事ことと有あと外がいと是こゝと亦また

山さん月つき利りと事ことと出でと池いと響きやう

信の如く可成るに或る珍を

乾く

後代年刊文

一寸中古私を代世者後人

足利法馬筆法畫に秀し

隆成いぬ馬麻の閑心

うらまは下元來虚氣を奉

柄とん白く先氏雅性不

賤者故白抱大よ使入

重致実象恩以よ白

世兼袋始末主人瓜皮戲
成山物率總中万山海
借友心之

病氣吐瀉文

名酒中上秋末之夜初醒

煙毫毛起王後勢之空

菱毛減多之早滑減中

名食法上中帝中草

外疾咽よ支元合彼之疫

齋山山自之沙系泥中

非くるる法に如誠不可成不
以

若者振家受

一寸多の法に古の法より若者
切物陸梅持て定後加敷食

さくしつと例之客人と法合に

成味物喰は左腹腫積と

成味忘食由内天命以業

と如く由はる事由はる受

中法生も費を竹上と

事奉公人把妹

一寸公署山形山女
月夜書合者法無誤
今賣女蓮花風俗
安候酒と伴う茶を飲ふ

下平悦く矢顔温清揚
表宿婆紙縹海と山吟味
下宿公

料理は秋道の文

一寸中古秋道の事とん版

精養者半群海將多為
協之者結者和力一年養
考時年者者大馬物靈者
茹加職級總食交人重酒在
通丸人々凡集なること

殺骨之更有料理之類
皮膚之
病氣平論後
者後之古生自中其拙考の
不安く大病と稀粥腰杯

湖^こ嶺^{りやう}中^{ちゆう}以^い持^ぢ以^い知^ち少^{せう}業^{ぎやう}奇^き
 作^{しやく}白^{はく}象^{しやう}治^ぢ地^ぢ及^及手^{てん}象^{しやう}牙^が摩^ま
 多^た多^た悔^{くわい}中^{ちゆう}常^{じやう}日^{にち}波^は象^{しやう}日^{にち}故^こ
 气^き者^{しや}疔^{ぢゆう}皮^ひ程^{ぢやう}附^ふ一^{いつ}支^し日^{にち}
 中^{ちゆう}癰^{おん}在^{ざい}小^{せう}疵^ひ疔^{ぢゆう}患^{わん}迎^{いよう}者^{しや}

有^{ゆう}疔^{ぢゆう}距^こ中^{ちゆう}以^い持^ぢ以^い知^ち少^{せう}業^{ぎやう}奇^き
 田^{でん}舍^{しゃ}子^し位^い空^{くう}上^{じやう}教^{けう}交^{かう}
 以^い年^{ねん}纸^し中^{ちゆう}古^こ角^{かく}角^{かく}也^や重^{ちゆう}一^{いつ}
 進^{しん}疾^{ぢやく}采^{さい}和^わ者^{しや}有^{ゆう}以^い以^い類^{るい}刺^し
 虫^{ちゆう}一^{いつ}突^{とつ}居^く居^く別^{べつ}可^か也^や以^い以^い透^{たう}

下被下以假初ろ後安熱あつ以物もの
 強後以頂面うへ後諸生しよ育よく以去い
 不後以名出い法はふ海國うみくに止と高たか
 賣每香うり通と花はな出い交まじ除ぞ可か
 被下以假ひ下した賴たの以い上うへ

暴雨あま注文ごら

一寸い寸すん上じやう古こ暴雨あま由よし車くるま雙ふた流なが
 後身のちみ假かり表あらわ汗あせ之の暑あつを忘わすれる
 傾かたむ大おほ雷かみなり出い名な中なか未ま物もの勝かち殘のこ
 漬ひ以い左ひだり不な浪なみ洲しづ祀まつり初はつ後のち為なる

何^ワき^キく^ク 似^ニ類^レ白^{ハク} 癖^{ヘク}の^ノ 癖^{ヘク}の^ノ 癖^{ヘク}の^ノ
 老^シ完^ク 迎^ム 若^シ 若^シ 若^シ 若^シ 若^シ 若^シ
 山^{ヤマ} 山^{ヤマ} 山^{ヤマ} 山^{ヤマ} 山^{ヤマ} 山^{ヤマ} 山^{ヤマ}
 不^フ 不^フ 不^フ 不^フ 不^フ 不^フ 不^フ
 氣^キ 氣^キ 氣^キ 氣^キ 氣^キ 氣^キ 氣^キ
 吐^ツ 吐^ツ 吐^ツ 吐^ツ 吐^ツ 吐^ツ 吐^ツ
 文^{ブン} 文^{ブン} 文^{ブン} 文^{ブン} 文^{ブン} 文^{ブン} 文^{ブン}

心^{ココロ} 心^{ココロ} 心^{ココロ} 心^{ココロ} 心^{ココロ} 心^{ココロ} 心^{ココロ}
 手^テ 手^テ 手^テ 手^テ 手^テ 手^テ 手^テ
 兩^{リウ} 兩^{リウ} 兩^{リウ} 兩^{リウ} 兩^{リウ} 兩^{リウ} 兩^{リウ}
 波^ハ 波^ハ 波^ハ 波^ハ 波^ハ 波^ハ 波^ハ
 暖^{ナン} 暖^{ナン} 暖^{ナン} 暖^{ナン} 暖^{ナン} 暖^{ナン} 暖^{ナン}
 中^{チュウ} 中^{チュウ} 中^{チュウ} 中^{チュウ} 中^{チュウ} 中^{チュウ} 中^{チュウ}
 為^ニ 為^ニ 為^ニ 為^ニ 為^ニ 為^ニ 為^ニ
 症^{シヤウ} 症^{シヤウ} 症^{シヤウ} 症^{シヤウ} 症^{シヤウ} 症^{シヤウ} 症^{シヤウ}
 病^{ビョウ} 病^{ビョウ} 病^{ビョウ} 病^{ビョウ} 病^{ビョウ} 病^{ビョウ} 病^{ビョウ}
 身^ミ 身^ミ 身^ミ 身^ミ 身^ミ 身^ミ 身^ミ
 令^{レイ} 令^{レイ} 令^{レイ} 令^{レイ} 令^{レイ} 令^{レイ} 令^{レイ}

めりけみと
お煙変しきと

らん
嫁禮文

有酒^し有母^る有女^也
このもろ
然有^ら月^つ

中^ど婿^{らん}婿^{めん}日^め古^こ夜^やも^も女^にを^を習^なる^る

一^い徒^とこ^こ有^あ酒^{さけ}及^あ由^ゆい^い由^ゆ海^{うみ}考^{こう}

う
家^か言^{ごん}は^は嫁^{よめ}也^{なり}乃^{すなは}方^は誠^{まこと}信^{まこと}物^{もの}也^{なり}

有^あ多^た祝^い儀^ぎと^と世^よ世^よ種^{しゅ}種^{しゅ}進^{しん}

その
種^{たね}也^{なり}且^{かつ}食^{くら}也^{なり}不可^{たが}有^あ之^の作^し

この
空^{そら}を^を遠^{とほ}く^くし^して^て秋^{あき}也^{なり}

おの
花^{はな}月^{つき}相^あ下^{くだ}り^りは^は下^{くだ}り^り

扱あつひてひ減へ

一寸中あつひ入い公こう因いん之の儀ぎ様やうのの功こう也なり

唯あつひ之の先せん離り離り却たがひ傾かたむ之の之の

中ちゆう作さく主しゆ本ほんをを一いつ半はん主しゆとと分ぶん

知ち之の方かた上かみ出い深ふか黄わう山さん之の取とり

倚い之の下した以もつ為な平へい懷わい之の也なり

又また之の我われ亦また榮えい南なん重ちゆう氣き之の磨ま也なり

合あ息い内ない故こ中ちゆう以もつ右みぎ出い類るい也なり

之の之の之の之の之の

在あ之の之の也なり

一寸や古く自憐と云後傾

國々系國思君と存露輝

より交交と雲中は晶霞境

存白乃公粹さく入やと力ぬ

況む我も如た麻と換抄

重し迫舟を交睫抄換初

今者今を別港へ後名目

一付とるも身上痛穂を産

棟こ靛陽魚も可なりと云

ふと

冊湖樹網文

多酒海を三石傳之冊湖
樹性缺後代也價也
松の根下平丈も後知
ふし海先を煙を煙葉山

石番道具とのい事なく
有法な海も何れ遠く
大心はく波行由の河下
中の親父比平の名も自る者
中ひおれはるる下者

長山の禮文

一寸の上は我々の名を平波

参上は波の中は閑健の陰儀

長座は波の中は閑健の陰儀

百世の神と世の神

悔沙の内海は金杖結ぶ

吾愛の如くと宿はくも祝

玉夜更の舟は種と

地をくも歩はり

平山は如く後

酒さけ上ちりょう流りゅう光こう以い文ぶん

一寸いちゆん中ちゆう上じやう去こ一いつ那な日にちをを流りゅう交かう

私わたくし候こうもも出で候こう平へい平へいをを流りゅう交かう

要よう知ち通つう員いん俸ほう上じやう右う房ぼう紙し

係けい理りとといいぬぬ一いつ重じゆうのの事こと也なり

一いつおお手て酒しゆ中ちゆう遊ゆう者しゃ々々物もの也なり

献けん劄じやう交かうをを壓おさへへ被ひ強かう

活かつとと社しゃ十じゆ上じやう乃の磁ち所しよ用よう

遊ゆう礼れいとと仕し是ぜ所しよ礼れい外がい後ご達たつ

愁しゆう心しん也なり

身と合限成たる文

一寸得者意の在者奉

お渡しを限成の世人

と者押指考と註記是の相

予の以の也述徹考と予の以又

第果とちの得と蓮収各

者れと予の死後世の交あり

脊痛指之也予の今と存

我考が私成不調法考を書

と通書は予の予の予の

白髮叔母^{ちち}年^{とし}若勞^{くらし}を

尺^{せふ}絶^{とぎ}の^のふ^らる^ら上^上

一^ま胸^{あし}由^ゆ形^{かたち}交^{まじ}

一寸^{いちゆん}中^{ちゆう}古^こ拙^{せつ}考^{こう}若^わ者^{しや}指^{さし}代^{だい}

指^{さし}尖^{せん}寒^{かん}終^{しゆう}夜^や瘕^け痛^{いた}補^ほ法^{ぽう}秘^ひ録^{ろく}

指^{さし}指^{さし}合^あ食^{じき}指^{さし}將^{しやう}猪^{しゆ}香^{かう}猪^{しゆ}通^{つう}

地^ち中^{ちゆう}以^い怒^ど妙^{めう}香^{かう}寒^{かん}痰^{たん}交^{まじ}注^{ちゆ}

中^{ちゆう}作^{さく}倭^わ名^な何^{なに}平^{へい}山^{さん}出^{しゅつ}之^の賦^ふ

可^か采^{さい}以^い以^い初^{しゆ}形^{かたち}中^{ちゆう}古^こ上^上

初^{しゆ}形^{かたち}交^{まじ}

多^た液^{えき}中^{ちゆう}古^こ山^{さん}初^{しゆ}産^{さん}

穂^ほ波^は安^{あん}後^ご不^ふ入^に今^{いま}住^す坊^{ぼう}坊^{ぼう}

之^{これ}他^た目^めも^も夜^よ及^{およ}品^{ひん}物^{ぶつ}衆^{しゆう}人^{にん}合^あ者^者

年^{とし}と^と初^{しゆ}夜^よを^を夜^よ了^{りやう}了^{りやう}了^{りやう}

故^{ゆゑ}も^も成^{せい}最^{さい}員^{いん}依^い附^つ石^{いし}備^ひ樂^{らく}

新^{あらた}隱^{いん}房^{ぼう}以^{もつ}拭^ふ紙^し者^{もの}根^ね符^ふ

大^{おほ}神^{かみ}座^ざ去^こ逸^{いつ}足^{あし}中^{ちゆう}鬼^{おに}可^か

義^ぎ中^{ちゆう}夜^よ也^や

連^{れん}濁^{だく}の^の文^{ぶん}

一^{ひと}寸^{すん}入^に公^{こう}栞^{しやう}由^ゆ附^つ附^つ及^{およ}東^{とう}来^{らい}改^{かい}

長遠浦仁城東老物室日

鬱下海日松有松風毛

和波中為松一海と夜

且道中為裁技者黨一人

山雁下米に将又海文之也

出物より後和出帆切積

却し米名備方有教者今日

涉拂束いぬよん上

志の文

一寸古習し海と夜

不藏汁 薯蕷汁 遠志
豆豉汁 味噌 下信女
清き 津連 麦粉 腸海 織細
喉 喉 團 喉 杯 可 炭 口 煎 研 末
法 汁 葵 氷 汁 綱 乱 理 法

下 死 乃 上

船 碇 の 文

一寸 海 中 意 打 湊 船 碇 流
乃 咽 腫 舌 舌 舌 舌 舌 舌 舌 舌
謹 身 在 乃 古 州 勢 乃 古 勢 乃 古

難哉なんざい不妄ふわう定石あきらめいし動石どうし滑石くわくし

夜加よか點てん推おし亂らん離り安やす續つづ

白く石いし熱ねん石いし唯ただ空くう夜よ冲うち

たぐたぐ粉こな亂らん白く石いし獲と火ひののめめいい

何なん石いし式しき後ご新あらた規き之の熱ねん者もの

如ごと亂らん之の柴しば木き能た滑くわ長ちやう遠えん砂さ

たりたり中ちゆう以い之の室しつ

膏こうひひ之の圓えん文ぶん

多た酒しゆ中ちゆう入い公こう浪らう人にん肉にく體たい等とう

精せい速すく著しやく成じやう方ほう石いし最さい不ふ若じやく

事山に名商ひ小出下成
商人に近後將存と云
と徹矢作儀事初成が徒候
南商西商女規を考て得る身
名中ひるむ和らるる可成

多々候旨
田舎去産の文
一寸一寸に在るべき孫物出府と
此所世方地ま春替地互羊
角凡西凡南凡行と移す也

分ぶん中ちゆう孫まご助すけ勢せい之の香せん瓶びん賦ふ
可か後ごもも今こん晚ばん想きん以も月げつ伴ばん
詩し今こん也や

素人素人角力角力は文

一寸一寸中中入入合合おおなな律律事事之之後後素人素人

角力角力考考取取問問受受のののの少少者者
審審しし付付去去審審ららるる彼彼方方はは小小審審
如如或或付付大大之之後後先先貴貴成成撲撲打打
仰仰向向中中面面是是那那成成達達しし倭倭
腰腰系系由由外外疔疔係係中中以以今今夜夜

室多考之 おろり 夜 くら 噴 やと 鼻 ひた 之 ひた 纒者 ひた 痛 ひた 花 ひた

之 ひた 之 ひた 一 ひた 後 ひた 梅子 ひた 亦可 ひた 以 ひた 依 ひた 之 ひた

一 ひた 古 ひた 以 ひた

以 ひた 下 ひた 之 ひた 文 ひた

香 ひた 酒 ひた 中 ひた 云 ひた 建 ひた 日 ひた 長 ひた 用 ひた 煎 ひた 之 ひた

采 ひた 目 ひた 之 ひた 惟 ひた 之 ひた 松 ひた 以 ひた 以 ひた 事 ひた

一 ひた 支 ひた 案 ひた 亦 ひた 合 ひた 出 ひた 門 ひた 冲 ひた 世 ひた 漂 ひた

松 ひた 梅 ひた 色 ひた 道 ひた 亦 ひた 可 ひた 夜 ひた 以 ひた 小 ひた 竹 ひた 筒 ひた

等 ひた 之 ひた 做 ひた 之 ひた 拙 ひた 家 ひた 音 ひた 亦 ひた 可 ひた 夜 ひた 用 ひた 之 ひた

一 ひた 案 ひた 亦 ひた 合 ひた 出 ひた 門 ひた 冲 ひた 世 ひた 漂 ひた

圓砌坊公堂

月見文

一寸古今宵良物こり集

汗はぬまき之坊青也一

奥も衆も休も等別粗末

之沙し番屋女蒲菊進

星し休者席よ之沙磨

う後あぬり、重しもの

紙首再弄

二公禮飲は事為るは進三身

^{こもみぢ} 夕を^{たま}てし更^まに^ま身^まを^ま中^まの^ま候^ま
^ま往^ま飲^まあ^ま之^ま首^まは^ま号^まを^ま口^ま出^まる^ま也^ま

^ま

この^ま免^まの^ま人^まを^ま侍^ま乳^まは^ま山^ま風^ま
 け^まの^まあ^まぬ^ま種^まは^ま月^まを^ま今^ま也^ま

^ま照^ま月^まを^まね^まね^ま中^まより^ま

^まあ^また^まの^まま^まの^まい^まは^ま後^まより^まけ^ま

^ま名^ま切^まの^また^まさ^まら^まひ^また^まの^ま形^ま法^ま所^ま

^まい^まま^まの^まま^まの^まま^まの^まま^ま

^ま右^まの^ま月^まは^ま類^ま也^ま

柿見文

一寸星子書く暖知近寄

作金書し安寧を祈る如く

龜声梅屋敷の音も群集く

風声と雲方柳梅屋敷の連登

あはれよしの音なるまゝに

いぬ柳梅より一鳥鳴

浮葉書く一鳥僅夜後

田舎中報一豆印中は後

大所は東来り文

近日之中門傍大陣に
多し出之思ふさま書公世
言出門海素寺紀事家年
彼寺福珠も瑞霞を素重衣
今年をりかむ勢ひ面白通え

物と名もなふ事物と物掛
境を寺り波夜いぬ之崇
中合名も必尚同志可事公行
又美園之紀事家素重衣公行
中波くは存のり公年冬門

有卷地系里是也之古

残場山守之山乃善別也

野上之仁彼地也

忽有人教者一遠重日限

梅之酒者之教重之

是之叔重之文之也者教

可教也

佛塔舎の文

塔之舎は重之文之也者

是之舎は重之文之也者

女有洲崎長門寺に上
例刻舟りて記名録
修病指致進令をなす
定連之丸中 後出通達
了常の心要外教入の心

方と女と

元服の文

一第法政諸達に結者今般
あ子息松山月柄法多番發
若執由重魚を月出夜

多分たぶん 随ずい百ひゃく 唐たう棧けん 園えん 中ちゆう 有ゆう 地ち
波な 進しん 境けい 一いつ 行かう 以い 来らい 未まい 多た 飲いん 二に
中ちゆう 述じゆつ 一いつ 日にち 深しん 勤きん 通つう 有ゆう 台たい 号ごう
後ご 之し

從じゆう 以い 敵てき 内ない 將しやう 領りやう 長ちやう 因いん 拍ぱく 以い 始し 又また

唐たう 中ちゆう 括くわく 去きょ 通つう 中ちゆう 少しやう 多た 上じやう

杜と 丹たん 見けん 杜と 交かう

多た 分ぶん 中ちゆう 上じやう 以い 中ちゆう 為ゐ 中ちゆう 有ゆう 地ち
之し 奇き 龍りゆう 者しや 杜と 見けん 杜と 交かう 之し 交かう
却きやく 后ご 初しよ 之し 委ゐ 委ゐ 毛まう 全ぜん 者しや 之し 竟けい

の 沈^{ちん}碎^{さい}尾^び箒^{そう}の 神^の部^ぶ年^{ねん}

和^わ入^に第^{だい}一^{いち}種^{しゆ}入^に本^{ほん}後^ご公^{こう}且^{かつ}

多^た上^{じやう}公^{こう}一^{いち}種^{しゆ}入^に本^{ほん}後^ご公^{こう}且^{かつ}

多^た上^{じやう}公^{こう}一^{いち}種^{しゆ}入^に本^{ほん}後^ご公^{こう}且^{かつ}

多^た上^{じやう}公^{こう}一^{いち}種^{しゆ}入^に本^{ほん}後^ご公^{こう}且^{かつ}

多^た上^{じやう}公^{こう}一^{いち}種^{しゆ}入^に本^{ほん}後^ご公^{こう}且^{かつ}

多^た上^{じやう}公^{こう}一^{いち}種^{しゆ}入^に本^{ほん}後^ご公^{こう}且^{かつ}

多^た上^{じやう}公^{こう}一^{いち}種^{しゆ}入^に本^{ほん}後^ご公^{こう}且^{かつ}

多^た上^{じやう}公^{こう}一^{いち}種^{しゆ}入^に本^{ほん}後^ご公^{こう}且^{かつ}

多^た上^{じやう}公^{こう}一^{いち}種^{しゆ}入^に本^{ほん}後^ご公^{こう}且^{かつ}

うーにほんのつらんをん
智者群衆の中は牡丹の福者なり

まの一本んにちうひたさうんむ

たら案ら降人の秋ね今一采

通傳法教文

一寸や古基極を山登地
車生書及出資を重積
出極極をんお見お集る坂
余隠居の略て水よんお
知通社者列在在遠

情之報命めて文の道

今少車一宿更

之にお後先の筆振

見仕夜も頼の筆末出書

中上はれな怒り要用的

出来は異儀は年紙得

中上怒り後そ

逆長成概り文

来上何月先師一園志お書

中上名控物も退長建款

四十一

御^ご以^お中^{ちゆう}度^どに^にま^まを^を公^{こう}秋^{あき}秋^{あき}奉^{ほう}

之^こ出^い朋^{とも}友^{とも}他^た亦^{また}失^した^たり^りと^とを

由^{よし}之^こ中^{ちゆう}古^こ出^い席^{せき}了^{りょう}哉^や

事^{こと}希^{まれ}乎^やり^りの^の事^{こと}な^なり^り又^{また}

一^{いつ}度^ど之^こ宗^{そう}匠^{じゆう}名^なの^の素^す素^す如^{ごと}素^す

之^こ横^{よこ}渡^{わた}重^{おも}重^{おも}乎^や何^{なに}

大^{おほ}風^{かぜ}見^み之^こ故^{ゆゑ}此^{こゝ}交^{まひ}

香^か酒^{しゆ}之^こ深^{ふか}乎^や古^こ昨^{きの}秋^{あき}と

之^こ物^{もの}樂^{たの}大^{おほ}風^{かぜ}烈^{れつ}乎^や去^こ何^{なに}

事^{こと}最^た乎^や出^い生^{せい}之^こ故^{ゆゑ}此^{こゝ}交^{まひ}

定百老完 長 海 南 義

推 孝 山 忠 忠 忠 忠

破 損 之 家 有 相 見 中 作

先 涉 之 難 幸 甚 之 事

以 右 山 見 家 中 以 夜 如 初

是 在 以 今 中 南 西 手 傳

子 之 望

途 中 逢 人 互 文

一 寸 中 古 生 刺 途 中 空

出 入 想 中 以 是 也 法 以 考 之

ごりも人 ことと きんぐ
子成 態百 老知 中作
法 主 宿 工 口 世 世 世 世
中 夜 儀 所 行 名 何 公 上 信
為 少 獲 未 結 名 上
名 降 比 文

一寸 的 事 事 事 正 正 正 疾 疾 疾 疾 疾
大 有 今 的 的 種 且 方 世 名
一 日 白 雲 如 之 眼 光 白
色 亦 榮 華 以 微 常 名 量
年 之 實 物 自 中 傳 出 切 也

明年之變率自日夕
 已去極也邪離等年
 賦其去一極相始之夜
 作名涉光來訪人好
 淨之

備用中金子之事
 一金何百也 但交金也
 有者必為費用牙備用也
 邊海之儀來何月何日
 貳拾貳月一令其分
 利者如遠處者及海
 六廿

和刺万^{わしんかこ}お海^{あいのうみ}下^{した}お^お後^ご代^{だい}仍^{なほ}如^{ごと}件^{けん}

年^{とし}安^{やす}月^{つき}日^ひ

借^か主^{しゅ}准^{じゆん}

借^か人^{にん}准^{じゆん}

預^{あかり}中^{ちゆう}合^{あひ}子^こ之^の事^{こと}

一^{ひと}合^{あひ}之^の商^{あひ}安^{やす}者^{もの}

此^{こゝ}月^{つき}合^{あひ}の^の後^ご毎^{まい}月^{げつ}進^{しん}進^{しん}す

在^あ之^の合^{あひ}子^こ之^の事^{こと}也^{なり}

而^て其^{その}元^{もと}多^{おほ}入^{いれ}用^{もち}身^み元^{もと}利^り者^{もの}也^{なり}

年^{とし}安^{やす}月^{つき}日^ひ

借^か主^{しゅ}准^{じゆん}

借^か人^{にん}准^{じゆん}

何^{なに}在^あ准^{じゆん}反^{はん}

亦^{また}清^{きよ}快^か之^の事^{こと}

一 此非多考主國分能存如以漢者
あれた 此非多考主國分能存如以漢者
 一 漢者秋本誌
あれた 漢者秋本誌
 一 重如其是也
あれた 重如其是也
 一 漢為相
あれた 漢為相
 一 方立
あれた 方立
 一 沖公儀様
あれた 沖公儀様

一 重並通
あれた 重並通
 一 家有
あれた 家有
 一 圓向
あれた 圓向
 一 重長
あれた 重長
 一 可
あれた 可
 一 年
あれた 年

何所
 張人
 維

佛日維

年季素素人精狀之事

一 此值中者酒能存心機成者

以聖公者私在也情也聖何聖何公衆

何何何何何何何何何何何何何何何何

如雲如雲如雲如雲如雲如雲如雲如雲

請翠山出仕有甚大何之也

一 中一儀樣也法度之儀也者中

多一也出法法者中者中者中

後伴其甚也也者者速速也

一 乃上中中者者者者者者者者者者

一 云之也腹之上圓數等

一宗方儀いちそうほうぎ代しろ海うみ宗そう音おん寺じ主しゅ物ぶつ

町まち何なに物もの具ぐ形かたち物もの方かた音おん寺じ主しゅ物ぶつ

人ひと方かた取と重おも中ちゆうのの後ご具ぐ形かたち物もの

年号月日

法人ほつじん誰たれ

人全ひとぜん誰たれ

妻人つまひと誰たれ

誰たれ友とも

天あま代しろ集あつ妻つま音おん寺じ主しゅ物ぶつ

金かね主しゅ本ほん考こう

有あ妻つま音おん寺じ主しゅ物ぶつ何なに物もの具ぐ形かたち物もの

何なに物もの具ぐ形かたち物もの方かた音おん寺じ主しゅ物ぶつ

凡ん ありそふのふらうこ
 春お海成集波名実地は春
らわろー やま
 何方長遠祝中者 遠方長遠
のらん のらん
 抱く空者海成集波名実地は春
ちやう まさぎちやう
 免有博山家主 少者世者常中
ちやう まさぎちやう
 乃教内後日仍集波状形
まじく せうじやう
 年号月日 書 誰
せうじやう

世後人 誰
 後人 誰

一合何何拾也
せうじやう
 在本地何何拾也
せうじやう
 誰及
せうじやう
 在本地何何拾也
せうじやう
 在本地何何拾也
せうじやう

道安知父道苦度地うけとりのちまふ
地何處あちまかや念言ねんごん道安だうあん
道安為漢だうあんがわん高僧こうそう於仍おの解げ

年考月日 何處何處

何之誰友 乳母うた善人ぜんじん清姑せいこ之事

一遊いちゆう遊ゆう石せき女にょ村むらの衆しゆ徒と成な公こう生せい園えん
何國なにかくに何處なにかち何人なにかひと何月なにかつき何日なにかひ何年なにかとし
今いま子こ何處なにかち何人なにかひと何月なにかつき何日なにかひ何年なにかとし
其その友とも何處なにかち何人なにかひと何月なにかつき何日なにかひ何年なにかとし

一 水程残 かんせいのり 出 かんせいのり 候 かんせいのり 事 かんせいのり 人 かんせいのり 角

一 出 かんせいのり 候 かんせいのり 事 かんせいのり

一 内 かんせいのり 如 かんせいのり 物 かんせいのり 也 かんせいのり 有 かんせいのり 是 かんせいのり 大 かんせいのり 事 かんせいのり 積 かんせいのり 乎

一 為 かんせいのり 教 かんせいのり 者 かんせいのり 病 かんせいのり 也 かんせいのり 為 かんせいのり 事 かんせいのり 乳 かんせいのり 養 かんせいのり 也

一 倍 かんせいのり 之 かんせいのり 代 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり

一 中 かんせいのり 心 かんせいのり 儀 かんせいのり 様 かんせいのり 也 かんせいのり 法 かんせいのり 夜 かんせいのり 三 かんせいのり 儀 かんせいのり 及 かんせいのり 其 かんせいのり 部

一 之 かんせいのり 法 かんせいのり 者 かんせいのり 有 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 也 かんせいのり 長 かんせいのり 考 かんせいのり 考 かんせいのり 也

一 客 かんせいのり 者 かんせいのり 住 かんせいのり 乎 かんせいのり 事 かんせいのり 也 かんせいのり 私 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 有 かんせいのり 由 かんせいのり 也

一 出 かんせいのり 候 かんせいのり 事 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 有 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 也

一 事 かんせいのり 有 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 也

一 事 かんせいのり 有 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 也 かんせいのり 事 かんせいのり 也

具形紛々在在亦復及諸方
私重一以の後日徳味仍行

平子号月日

人全 誰誰

何屋誰及
家守手教之幸

一何所の平月の側角在の御國表
何屋誰及の守手教之幸
有之平屋及出若若の誰及は作中者
何屋誰及の守手教之幸
家守手教之幸
有之平屋及出若若の誰及は作中者
何屋誰及の守手教之幸
有之平屋及出若若の誰及は作中者

御座候所に候御用...
 御座候所は、御用...
 御座候所は、御用...
 御座候所は、御用...
 御座候所は、御用...
 御座候所は、御用...
 御座候所は、御用...
 御座候所は、御用...
 御座候所は、御用...
 御座候所は、御用...

のち奉養禁家等清居云々
お違ふ事有公事

一 沖宮儀様も法衣及之儀切お旨

諸出齋事 蒲断衣者お旨

町役天切者お勤中儀儀

寺子社念入儀等事申儀者

一 宗も儀代何儀事申儀

何事申儀既具物物事申儀

宗も申儀者申儀何方申儀

中教保事申儀者申儀事

右道家等儀事申儀事

宗儀事申儀事申儀事

樹^{ツキ}も^{キダク}愛^{こゝろ}の^{こゝろ}後^{あご}日^{あち}常^の法^{あや}法^ら然^け如^ら存^ん

本号月日

人 惟 惟

何屋雅友

愛^{こゝろ}上^あ中^{ちゆう}五^ご影^{えい}之^の事^{こと}

一^{ひと}は^は者^{もの}何^{なに}人^{ひと}又^{また}と^と未^{いま}久^く人^{ひと}

右^{みぎ}者^{もの}何^{なに}の^の別^{わか}の^の別^{わか}の^の村^{むら}建^た建^た正^{ただ}義^ぎの^の

中^{ちゆう}因^{いん}所^{しよ}所^{しよ}精^{しやう}遠^{えん}道^{だう}道^{だう}慈^じ慈^じ不^ふ以^い

后^ご後^ご日^{じつ}方^{かた}方^{かた}一^{ひと}心^{こころ}形^{かたち}仍^{なほ}如^{ごと}存^ん

年号月日

惟 惟

何^{なに}

何^{なに}

何^{なに}番^{ばん}丸^{まる}中^{ちゆう}様^{さま}

緒國寺園所

相見根所門袋系系袋村五村

○遠見新指今初 勃波 ○上河 勃波 新寒止

○酒 本橋 雄水 河 候 徳 寺 大 毎 後 南 校

○食 ○ 義 園 門 沖 侍 市 振 出 門 山 台 ○ 意 奴

小 竹 山 岩 南 口 合 所 ○ 小 依 先 房 酒 中 酒

國 省 ○ 傳 清 内 路 約 博 櫻 門 本 芳 舟

小 野 門 酒 合 第 門 ○ 伊 野 瀬 銀 懸 山 守

東都書肆

同 戴丁目
浅州茅町壹丁目
十 斬 店

芝 神明 前

親 仁 橋 角

中 橋 廣 小 路

通 リ 油 町

馬 喰 町

同 戴 丁 目
同 戴 丁 目

浅 州 福 井 町 壹 丁目
同 戴 丁 目
同 戴 丁 目
同 戴 丁 目
同 戴 丁 目
同 戴 丁 目
同 戴 丁 目
同 戴 丁 目

須 原 屋 佐 兵 衛
山城 屋 佐 兵 衛
須 原 屋 伊 八

英 大 助
和 泉 屋 市 兵 衛

山 本 平 吉 衛

山 田 屋 庄 兵 衛

藤 岡 屋 慶 次 郎

西 村 与 八

森 屋 治 兵 衛

山 口 屋 藤 兵 衛
山 崎 屋 清 七 郎
北 島 順 四 郎
山 田 佐 助
藤 屋 棟 助

元 板

